

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472601317
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原
事業所名	グループホーム シオン相模原
訪問調査日	令和1年9月26日
評価確定日	令和1年10月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和1年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601317	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成26年12月1日	
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原			
事業所名	グループホーム シオン相模原			
所在地	( 252-0137 )			
	神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護		通い定員	名
			宿泊定員	名
			定員計	9名
			ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天気の良い日は、午前中、みんなで日光浴をしながら、コミュニケーションをはかる。ご近所体操を近くの公園にて、近所の方々と一緒に体操を月2回行って、社会性を失うことなく、健康を保っている。外出の回数を多くし、楽しい生活を送れるよう工夫している。</p>
---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和1年9月26日	評価機関 評価決定日	令和1年10月30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所はNPO法人シオン相模原の運営です。同法人は高齢者グループホーム、身体障がい者向けグループホームや保育園を相模原市内で運営しています。ここ「グループホームシオン相模原」はJR横浜線「橋本駅」北口から「三ヶ木行き」のバスに乗り「相原中央」で下車して徒歩5分程の住宅街の一角に位置しています。当初建物は2階建ての、有料老人ホームの予定で作られたため各居室は13畳と広く、トイレや浴室、キッチンも備わっていますが、浴室とキッチンは使用できないようにしています。</p> <p>●ケアについては、「私たちは入居者中心に考えます」①キリスト教の愛、よるこび、平安、寛容を基本に支援します。②住み慣れた生活を目指します。③地域との交流を大切にします。とした理念に沿った支援を実践するために、理念を事務所とリビングに掲示して、毎朝の引継ぎ時に全員で唱和しています。さらに、毎月2回開催の職員会議では、法人の副理事長が理念についての心構えを説話を通して職員に伝え、日頃の介護から看取りまで、入居者を主体に考えたケアサービスに繋がっています。</p> <p>●地域とは良好な関係が継続しています。近所の方々や民生委員で作られた「シオン相模原協力会」の方が、防災訓練やバーベキュー大会など、事業所の行事に協力していただいたり、地域の夏祭りや七夕、盆踊りにも参加して交流を深めています。地元の中学・高校生の体験学習の受け入れや、保育園との交流では、運動会にも参加しています。また、日常的には事業所の直ぐ近くにある公園で行う「ご近所ふれあい体操」に参加して、近隣の方々とも交流を図りながら、社会性を維持できるように支援しています。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム シオン相模原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議での話し合い、朝の引き継ぎ時合唱する等、理念を共有し実践につなげている。	「私たちは入居者中心に考えます」①キリスト教の愛、よろこび、平安、寛容を基本に支援します。②住み慣れた生活を目指します。③地域との交流を大切にします。とした理念に沿った支援を実践するために、理念を事務所とリビングに掲示して、毎朝の引継ぎ時に全員で唱和しています。さらに、毎月2回開催の職員会議では、法人の副理事長が理念についての心構えを説話を通して職員に伝え、日頃の介護から看取りまで、入居者を主体に考えたケアサービスに繋げています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園での体操（ご近所体操）やお祭り、運動会等行事の参加により、地域の人と日常的に交流している。	地域とは良好な関係が継続しています。近所の方々や民生委員で作られた「シオン相模原協力会」の方が、防災訓練やバーベキュー大会など、事業所の行事に協力していただいたり、地域の夏祭りや七夕、盆踊りにも参加して交流を深めています。さらに、地元の中学・高校生の体験学習の受け入れや、保育園との交流もあり、保育園の運動会に参加しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、公園での体操、行事参加など積極的に地域と関わることにより、人々の認知症やホームに対する理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、月に一回の職員会議で報告、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は年6回、平日の午後から開催しています。参加者は高齢者支援センター職員、民生委員、シオン相模原協力会会長、副会長、利用者などの参加を得て、事業所の現状や活動報告と、地域の行事、防犯状況などの情報や、高齢者支援センター主催のオレンジカフェや、音楽会などの案内もいただいています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区役所、相原高齢者支援センターと連絡、協力関係を築いている。	緑区役所の担当課へは、運営推進会議の議事録や事故報告など直接手渡し協力関係を築いています。現在は生活保護受給者の方が半数入居され、その関係で各生活支援課職員の訪問や問い合わせなど随時受け付けています。さらに、市主催の研修や近隣病院で開催される勉強会などにも積極的に職員の参加を促し、情報の収集やサービスの質の向上につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議時、課題に挙げて、話し合いをしている。管理者、職員が理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束の適正化を図る委員会があり3ヶ月に1回開催し、身体拘束の必要の有無を検討しています。毎月2回開催の職員会議でも事例を挙げて話し合いを行っています。身体拘束廃止のマニュアルも整備し、実践者研修などの外部研修も受講して、身体拘束をしないケアを実践しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待防止の研修を行い、各自、自覚を持って対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員が研修などで権利擁護に関する制度の理解をし、それを活用して入居者の権利を守り、生活支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の課題をご家族に聴いて話し合い、連絡を取り合い、理解し納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等の機会をもうけ、意見や要望を受けたら、職員で話し合いをしている。	ほとんどの家族の方は、月に1回は来訪されるので、その際に近況報告と併せて意見や要望を伺うようにしています。さらに、3ヶ月毎に発行している「シオン相模原だより」には、行事や日頃の様子を写真付きで伝えたり、今後の予定などもお伝えしています。いただいた意見や要望は、連絡帳にて職員全員に周知し、内容によっては職員会議で検討して対応をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者と、職員との話し合いの時を設け、反映させている。	毎朝の引継ぎや、月2回の職員会議で職員の意見や提案を聞いています。職員会議には毎回副理事長も参加しており、職員との意見交換が行われています。管理者は、現場の実務も行い職員との話しやすい状況下で、その都度必要に応じて個別に話し合う機会も設けており、風通しの良い職場環境作りに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を積極的に進めて、ケアに役立てている。資格を取得しやすい環境を作る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流が少ないため、今後、ネットワーク作りをし、サービスの向上に努めていく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と話し合い、要望、気持ち等に耳を傾け、安心していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、利用者のご家族との話し合いを大切にし、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているのか、よく聞き取りをし、見極め、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を自分の家族と思い、笑顔が出るように努力している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活についての話を共有し、共に利用者本人を支える関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出を増やして、人や場所との関係を途切れないようにしている。	家族や友人の来訪時には、広い居室でゆっくりと話ができるように椅子などを用意しています。理美容は本人が希望する場所へ送迎したり、馴染みのボランティアの方にカットをお願いすることもあります。緊急時など居室が広いので遠方の家族の方が、布団を用意して泊まって行かれることもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が笑顔で楽しく会話ができるよう、環境作りや個々の話を聞いて、利用者同士が関わり合い、協同で作業をして頂き、出来ることを支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常にご家族に情報提供し、入院された方や亡くなられた場合でも、ご家族のフォローに努め、信頼関係を大切にしている。利用者、ご家族の経過をフォローして、関係性を大切に、支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、どのような環境で生活をされていたのかなど、ご家族から伺って、その方一人ひとりにどのように暮らしていきたいか希望や意向を聞き、アセスメント分析した上で、その人らしく暮らせる生活作りを支援している。	入居時の事前面談で本人や家族から利用者の嗜好品、趣味、習慣、大切にされてきた物などについて細かく聴き取りを行い、事業所での暮らし方の希望や意向の把握に努めています。入居後は、職員全員で日常の暮しぶりや、発した言葉などを検討しながら、その人らしく暮らせる生活作りを支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居して頂く前に、面談やご家族にアセスメントした情報を聞き、利用者の好きな事や食べ物、趣味や習慣など、大切にされてきた物や使い込んできた物ねど、少しでも馴染みのある生活環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に、健康状態（バイタル測）や排泄の有無や時間、水分摂取量、日常の変化などを把握して、主治医、看護師との連携を保ち、常に利用者の状態の変化に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員ミーティングを開き、利用者一人ひとりの健康状態や生活行動など、沢山話し合い、スタッフ同士意見交換をし、ご家族や医療関係者と連携を取り、介護計画に反映している。	入居時は2～3週間は経過を観て、現状に適した介護計画を作成しています。毎月の職員会議にて利用者全員のモニタリングを行い、介護計画に沿った支援が行えているか確認しています。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年として6ヶ月毎に介護計画を更新しています。更新時には家族や、医療関係者と連携を取りながら、家族からの意見や要望、医療的見解を介護計画に反映させています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、排泄や水分摂取量、健康状態などを記録し、以前との違いなど、職員同士で情報を共有し、実践や工夫をし、常に変化に気づけるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の状況変化に対応して、今やるべき事は何か、その方のニーズを把握して、既存のサービスに捕われない柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を大切にしている。近隣の方々と一緒に、ご近所体操や季節の花巡りやイベント等、ボランティアの手を借りながらの外出、日帰り旅行など、利用者の安全第一に、利用者が心身、笑顔で楽しめる環境作りをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族や利用者に説明している。受診は、医療機関と連携し、訪問看護は週に1回、内科は月2回、歯科は週1回、他の受診は必要に応じて行い、夜間や休日も24時間体制で連絡を取れるよう支援している。	入居時に事業所の協力医療機関について説明を行っています。ほとんどの方は協力医療機関の訪問診療を受診していますが、従来のかかりつけ医での受診を継続されている方もいます。契約している看護師も毎週1回の訪問があり、利用者のバイタルチェックと健康管理を行っています。協力医は、訪問診療ネットワークの内科医で、365日24時間のオンコール体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック、日々の健康管理、利用者の体調の変化を見て、看護師等に報告、情報交換する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し、速やかに情報提供し、相談に応じている。また、常に連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的、精神的負担を和らげ、利用者やご家族の意思を尊重しつつ、地域関係者と共に、利用者が最後まで安らかに過ごせるようなケアを行う。	入居時に重度化した場合における指針について説明し、同意書をいただいています。主治医から重度化における終末期の話があった際には、家族、医師、管理者による話し合いの場を設け、希望により利用者の身体的、精神的負担を和らげ、最期まで安らかに過ごせる様に看取り介護を支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時、利用者が状況を理解できるように、迅速で適切な対応ができるようにする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常日頃から、予防対策と、災害発生直前直後の避難や、応急支援対策、利用者を災害から守るという目標の達成に向けて協力体制をとっている。	防災訓練は年2回行い、2年に1回は消防署に立ち合いを依頼しています。訓練時には、避難誘導や通報、消火訓練を行い、シオン相模原協力会の方々にも参加していただきながら行っています。各居室にヘルメットを用意している他、食料は米、味噌、水など約1週間分は確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そばに行ってから声掛けをする。 失禁、失便などの時は、誇りを損なわないような対応に努める。	基本理念にも「私たちは入居者中心に考えます」と掲げており、どのような場面でも、職員は常に利用者本位の声掛けや対応を心掛けています。職員会議では、間違った事例など挙げて対応の方法を検討しています。プライバシーの確保のため個人情報の書類などは、置く場所を決めて管理しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか聞き取りをし、利用者本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケをしたり、体操をしたり日光浴したり、どのように過ごしたいのか、希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを選んでもらったり、外出行事には、季節や気分に合わせて洋服選びの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、食器を拭いたり、片付けてもらったりする。	入居者の存続能力を活かしながら、簡単な下拵えや、片付け、食器拭きなど手伝っていただくようにしています。食材は主にレシピ付き食材を業者より購入していますが、時には畑で採れた芋類や庭のプランターで育てたトマトやピーマンなどの野菜と一緒に収穫して使用しています。お花見などの外出行事の際には、レストランで外食を楽しんだり、納涼祭やバーベキュー大会でも手作りの食事を楽しんでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に、副食を食べやすい大きさに切ったり、刻み食にするなどの対応をしている。水分摂取については、季節や状態によって調節している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けして口腔ケアに誘導し、義歯の方は、義歯を洗浄剤にて清掃、保管している。歯ブラシの使用やうがいができる方には見守り対応をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄時間の間隔や諸動作の観察により、声掛けにてトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの介護記録で便や尿を、時間ごとにチェックして排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行っています。立位のとれない方などは夜間オムツを使用していますが、日中は極力オムツを外してのトイレ誘導を心がけています。各居室にトイレが設置されているので自立の方は、自分のタイミングでトイレに行かれています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食物、ヨーグルトなどを提供したり、運動を取り入れたりして、個々に応じた予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を大切にして、安全に入浴できるようにしている。	入浴は、週に2回午後からを基本としています。重度化の方や身体の大きい方は、安全のために2人介助で、浴槽に浸かったりシャワー浴の支援を行っています。季節に合わせた、ゆず湯や菖蒲湯も行い、季節感も楽しんでいただけるようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に巡回し、声掛けや見守りを行い、室温調節、体温調節を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の声掛けや、症状についての観察を常に心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の部屋の清掃時、出来ることはなるべく手伝っていただく。カラオケやレクリエーションを楽しめるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ホームの外や公園などでの体操を行ったり、時には散歩を楽しんでいただく。	天気の良い日には、午前中に庭のベンチで日光浴をしたり近隣の公園を散歩しています。公園では定期的に「ご近所ふれあい体操」が行われており、数名の方をお連れして参加しています。シオン相模原協力会の援助もあり、ドライブでシーパラダイス、相模原北公園、町田リス園、いちご狩り、ぶどう狩りなどへも出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には、常に同行し見守るなど、利用者のニーズに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人から家族への電話の申し出がある場合には、本人自ら電話をすることが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、居間や食堂において、利用者と共に、唱歌や童謡、カラオケなどをしたり、体操やレクレーションの工夫などをして、楽しく過ごすことが出来るように努めている。	リビング周囲の壁には利用者と一緒に作成した作品や、季節感のあるちぎり絵、書道の作品、外出時の写真が飾られています。アコーディオン演奏のボランティアの方や、職員が演奏するピアノ、フルート、木琴などを聞いたり、カラオケ機械を使用したカラオケなど、皆さんで楽しめるようにしています。温度や湿度の管理と、掃除も毎日職員が行い、快適に過ごせる空間の維持に努めています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知が進んでいる利用者が多く、意思疎通が困難な中で、一人ひとりに合った話題を取り上げ、同調できるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の思い出のある物や使い慣れた物を、本人の目の届く範囲内に置くなど、できるだけ安心して過ごすことが出来るように努めている。	各居室は13畳と広く、家具などを持ち込まれてもゆったりと生活できる広さがあります。エアコン、クローゼット、トイレ、ベッドは完備されているので、入居時には、テレビ、整理ダンス、写真、仏壇など本人の思い出のある物や、使い慣れた物を持ち込んでいただくように努めています。持ち込まれた家具や調度品は、夫々好きな位置に配置され、落ち着いて過ごせる空間作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ることを積極的に、自ら進んでできるよう、トレー拭き、食器拭き、掃除の手伝いをして頂くなど、自立した生活が出来るよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

作成日

---

---

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。